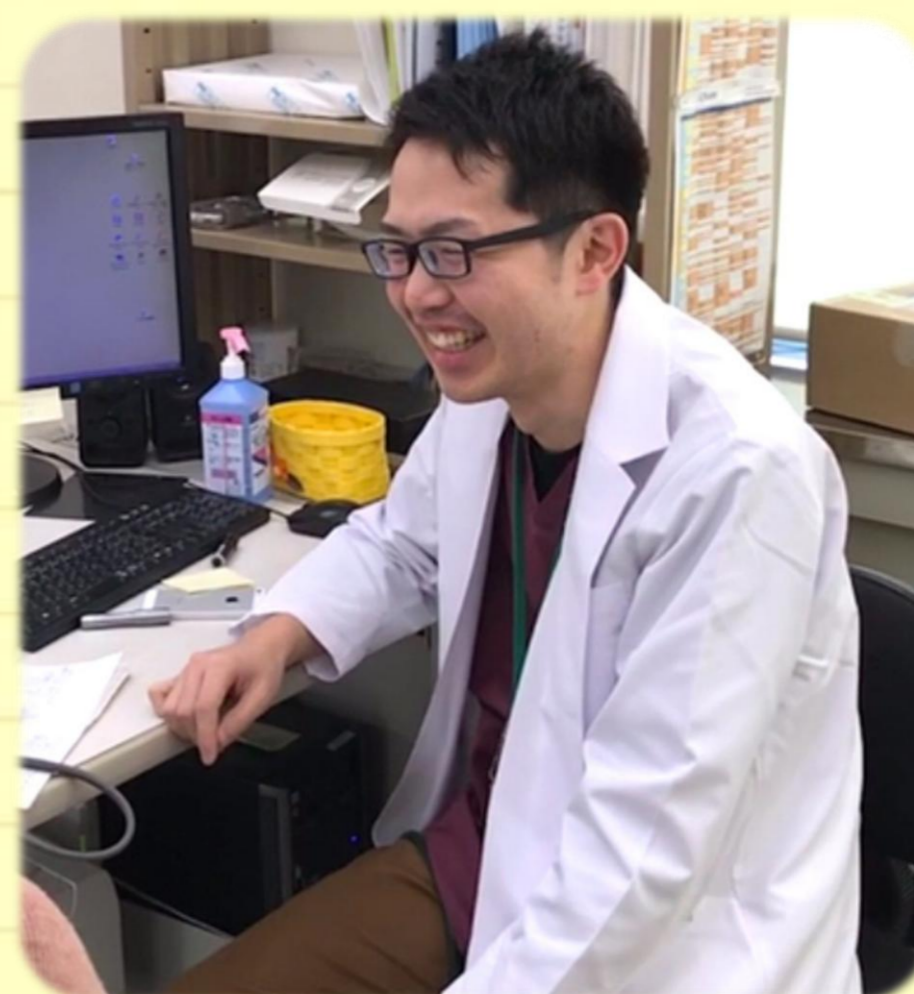


「先生もそろそろ小海に戻っちゃうんでしょう？
次は医療センターかい？」

「いやいや、まだまだお呼びが掛からないですよ。
もうしばらく働かせてください。」

なんて会話を続けていたら、あっという間に4年半
が経っていました。いろいろなことがありました。
診療所内では、在宅でも使える超音波の導入、小児
予防接種の開始、健康手帳の更新、新型コロナワク
チン集団接種、野辺山診療所開院、フットケア開始

など、保健師・看護師・事務さんたちに全面的に頼
りながら進めてきました。個人としては家庭医療専門医、在宅医療専門医、認知症サポ
ート医、ケアマネジャー、FP、簿記、公認心理師など、診療所で出会う「知らなかったこ
と」に対応すべく学びを深めてきました。『地域に密着し住民の暮らしを見つめた医療機
関として、地域住民の命と健康を守り、安心して暮らせる地域づくりに貢献する』という



診療所の理念に少しでも近づけるよう
に、がむしゃらに過ごした4年半でし
た。

診療所に赴任した当初、役場で「先
生は診療所でやりたいことはありませ
るか？」と聞かれ、「最期まで家でいら
れるようにサポートできたらと思いま
す」と答えると、「ははは、それもよ
いけど、先生は病気を治してくれな

くっちゃ！」と切り返されました。それもそうかもなと気を引き締め精一杯診療してきた
つもりですが、結局「病気を治すこと」は、あまりできなかったかもしれません。精一杯
対応しても、せいぜい現状維持しかできなくて、少しずつ最期の時間が近づいてしまう
方々が何名もおられました。ご自宅で最期を迎えた方はこの期間で25名を超えました。ギ
リギリまで家で過ごして最期は短期間入院した方も含めると55名を上回ります。皆さんの
名前を見ると、声や言葉やしぐさが鮮明に思い起こされます。人生の大先輩たちから、人
としてたくさん大切なことを学びました。

今日も診療所では、80歳、90歳を
超えても元気に過ごしている患者さん
たちを診察しながら世間話に花を咲か
せています。午後には、生まれた頃か
ら知っている子どもたちが注射を受け
て手を振って帰っていきます。

空から見ている方々に恥じぬように、
これからも南牧村で学んでいけたらと
思っています。

